ゲストスピーチ

社会を変える、社会をつくる －市民活動のホットな課題

財団法人 さわやか福祉財団 理事長
堀田　力（ほったつとむ）

バックラッシュに揺るがずに

最近、バックラッシュといって、男女共同参画に対する揺り戻し・反発があちこちに表れています。この状況は、専業主婦の問題に踏み込んだことにより、男女共同参画が一歩前進したためだと思っています。これまでは、社会で働いている女性が専業主婦の方々と上手に組みながら男女共同参画を進めてきました。しかし数年前から、年金にしろ税制にしろ専業主婦に有利な世帯単位はおかしい、個人単位にすべきだと明確に主張するようになりました。こうした主張は政府も取り入れつつあります。そうなりますと、専業主婦の立場からすれば恩典がなくなることへの不満が出てきますし、妻を専業主婦にして家事面で楽をしたい男性との利害が一致して、それがバックラッシュとなります。伝統的な「鯉のぼりやお雛さま」は当たり前というように、いろいろな場面でそうした主張が出てきました。

また古い考えをもった男性が女性の主張をあまり怖がらなくなったこともあるでしょう。男女共同参画は憲法に支えられた主張で、古い男性陣も正面切っては何も言えず、自分たちの従来の城を守りながらどこかで骨抜きにしてやろうとしてきました。しかしこの関係が別氏別姓問題で崩れました。男性陣はこの法案には非常に驚き、某国会議員を中心に断固反対。当然女性側のもっと強い主張があると覚悟していたのに案外出てこず、その頑張り方もピント外れ。政府が法案を出しておきながらいまだに通らないという状況を見て、今までは怖いと引いていたけれどもそれほどでもないという感じがしたのでしょう。

もう一つ、冷戦構造が壊れてソ連という敵がなくなったアメリカが遠慮なしに武力を使うようになるなど、武力による物事の解決をためらわない風潮になってきたこともあります。

しかし、もう一つ先を見ると、大きな流れとして男女共同参画があり、世界全体がその方向に向かっています。男女共同参画は単に男女平等の問題だけではなく、個人それぞれの想い、それぞれの生き方を尊重し生かしていこうということです。ですから目先のことで揺るがず、自信をもって毅然として対応することが、今一番大切なのではないでしょうか。

男女共同参画社会の実質を実現する

男女共同参画というのは非常に正しいことなのに、もう一つ一般性がなく、特に男性に受けが悪い。すべての人にアピールするもっとよい訴え方という発想から以下の４つをあげます。

①能力主義

憲法14条１項に「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」とあります。差別しないという形式を守って実質どういう中身を実現するのか。男女共同参画社会を実質的に言えば、外的な要件や違いにかかわらず「その人自身の能力に着目し、それを生かせる社会」です。そ

ういう言い方に変えると、外国人、高齢者、年功序列の被害者である若者、男女共同参画には一番反対しがちな中高年のおじさんなど、能力そのものを適材適所で公平に生かしてほしいと思っている仲間がいっぱいできます。

また「年齢にかかわりなく働ける社会に関する有識者会議」では、どんな状態や年齢でも、能力を生かせるよう柔軟にしていく「複線型の人生設計」への条件整備を提言しています。これは女性差別、高齢者差別廃止の問題でもあります。こうした能力主義の主張と連帯しネットワークを組んで進めていくことが大事です。

②個性尊重

この能力主義を推し進めることは、すべての人の個性を尊重し生かしていくということです。

③多様なライフスタイル

それをさらに進めれば、就職するも／しないもよし、仕事を中断してボランティア活動をするも／学校に行くもよし、結婚するも／離婚するもよし、就労・学習・家庭生活あらゆる場面でいろいろな生き方が選べる社会になります。

④人間的な生活・就労

さらに推し進めると、誰もが家庭生活も職業生活も楽しめる人間的な社会になります。こうしたことを目指すためにいろいろな人と連帯・団結することが大切です。

ところで私はフェミニストではありません。ただ、世の中に不当な差別があることに我慢ができない性質ですので、ジェンダーに基づく差別にも腹が立つ。人がそれぞれの想いを大切に生きていけるように、それに反することには我慢できないという立場から発言しています。

社会を変える ― 既存の組織への“モデル効果”

市民活動の意義の１つに「モデル効果」があります。市民活動の進め方自体が、差別をしていたり能力を生かしていなかったりしてはうまくいきません。能力主義、個性尊重、多様な生き方を生かす、それぞれの人が人間的な生活を送るといったことを大事にしながら進めないと長続きしません。男性優位でなしに、高齢者を年齢差別しないでやるほうが成功するし、やっている人たちもハッピーなのだと、世の中に示す効果があります。

企業もこのごろは分社化など小さい形にして従来のピラミッド型からネットワーク型へという動きになっていますし、やがて官庁もそうなるでしょう。これが進むと男女共同参画社会になります。実質のモデルを示すことによって社会を変えていく大切な役割がNPOにはあるのです。

市民活動の認知を広げ、発展させる仕組みづくり

市民活動が、よい・楽しい・個性を生かした・柔軟な「働き方」を実現していくモデルになり、社会を変えていく力になるわけですから、その活動がきちんと社会に認められていくことが大切です。市民活動は個人主義、人間の尊厳に目覚めた人たちの行う運動ですから、組織運営も能力主義が可能なわけです。その市民活動を広げるためには、まず実績を示すこと、その活動によって人が幸せになったという実績を積むことが基本です。

また、ネットワークを組むことも大切です。いろいろな人たちとのネットワークによって、一つの団体の力が何倍にもなりますし、お互いに学び合えます。

それから、市民活動を定着・発展させる仕組みをつくることが重要です。今、NPO団体や公益法人等を税制面で締めつける動きがありますが、これも一つのバックラッシュでとんでもないことです。市民活動を助成することは、結局はそれぞれの人が個性ある自由な生き方を実現することにつながります。そういう意味で、市民活動を今回取り上げられたのは大変適切で、男女共同参画の実現のためにも、一見回り道のようだけれども確かな王道であると思います。